

研修名 保育内容研修3（音楽あそび）

平成27年7月17日（金）13:00～16:00

講演 「響きあう関係を育てるために ～ 音楽あそびを通して ～」

講師 岩田 遵子 氏

1 講師要旨

1) 存在意義 — 身体と音楽 —

なぜ音楽が必要なのか？

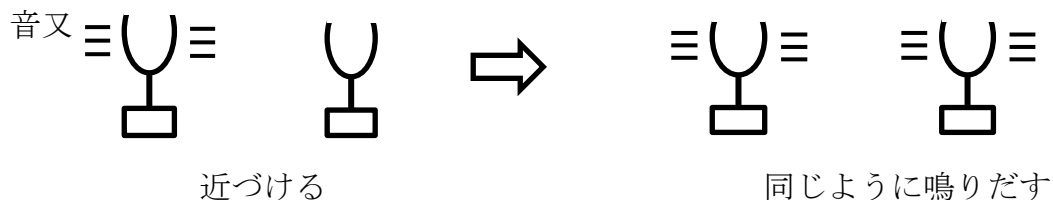
① 音楽の存在を持っていない国はない。

コミュニケーションの根底にあるもの — ひびき合う身体 —

姿勢反響 — コミュニケーションをしていると姿勢が同じようになる。

例) 手の位置がだんだん上の方になる。ひじをおく。手を叩く。

→ コミュニケーションダンス



☆ 共鳴的同調 — 身体が響き合う コミュニケーションダンス

② 生活の中によくある体の響き合い → あくび 泣く→もらい泣き 笑う 話し方 (TELの時など) 顔 (夫婦) 言い方がうつるなど

- ・ 人は悲しいから泣くのではない 泣くから悲しいのである (Wジェイムズ)
- ・ あそびは、身体が響き合って成り立つ。 → 同じ動きだからである。

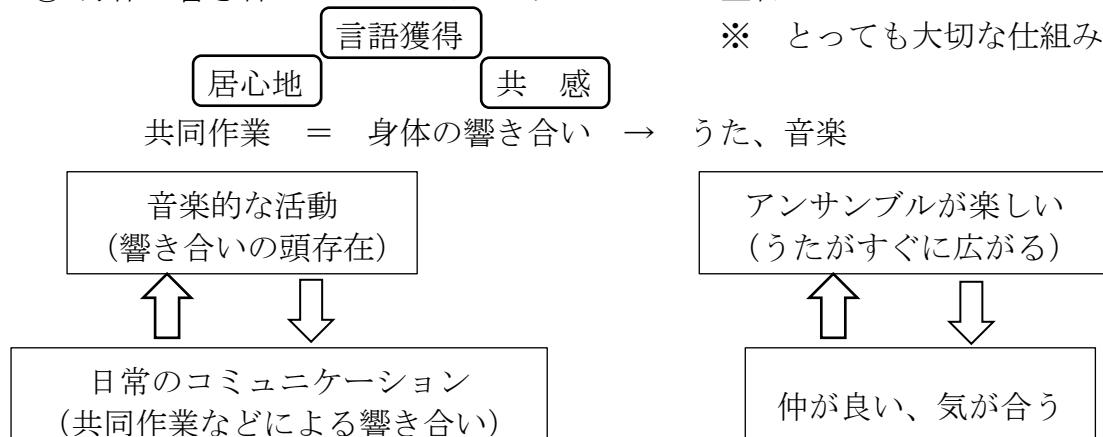


子どもにとって安定している

ミラーソング — 線対象を取り入れる。

※ 同じ姿勢をすることで、前から知っているような感覚になり、リラックスできる

③ 身体の響き合い = コミュニケーションの土台



2) 豊かな響き合いを育てるには

＜日常の活動を見直す＞

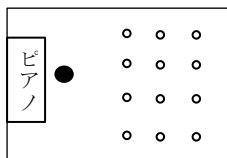
- ・子ども達が自分達で響き合う関係を形成するために



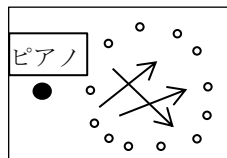
- ・集会活動におけるクラス皆でうたう活動（手あそび、わらべ歌の見直し）

① 集まりの場面

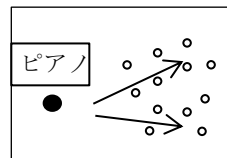
並び方



不自然



見る－見られる
人々が見合える並び方
の方が良い



見る－見られる
手あそびにいい並び方
(指で表現する)

乳児 大人同士で響き合う関係が出来ていれば小さい子にも響く

集まった時の身体の距離 → 近い方が親近感がある。(まとまる)

② コーナーあそび

コーナーに入らず、部屋を動きまわり、戦いごっこをしている。→他の子と響きが
ちがう（うすい）

集まりの時には、すみっこや後ろにすることが多い。

※ 子ども同士で響き合っているか見る事が大切。響き合えていなかったら、繰
り返し同じあそびをすることが大切。距離が出来ている子には、保育士から縮
めていけないといけない。

③ おてあわせが大切（おちゃらか、お寺の中から）

※ リズムや手の感触を合わせることが大切。人間関係が良いか悪いかで合奏の楽
しさがちがう。

2 感想

日常の中で音楽というのが、どれほど大切なものだと改めて実感しました。

最近ではPCやゲームなどが使われるようになり、人と人とのつながる機会が減ってきてコ
ミュニケーション自体がなかなかうまくとれないのが現状です。だから、小さい時から歌や手
あそび、おてあわせを通して、響き合う身体を作っていけるように、保育士は工夫しながら保
育をしていけないといけないと思いました。この研修を通して学んだことを、しっかり保育に
生かしていきたいと思います。

（記録 梅美台保育園 下岡 香代）

